

Q&A

ローランド・ミュージック・スクール ROLAND MUSIC SCHOOL

発刊にあたって

導入期における音楽教育は、演奏法、楽典などカテゴライズされたものを与えるより、 生徒さん個人個人の感性や音楽性をあらゆる角度から見極めた上で、効果的に導く 手法が見直されています。

特に幼児の内に秘めたる可能性は未知数です。たとえば、ちょっとしたきっかけで、著しい成長を遂げる生徒さんがいたとします。もちろん本人の自覚によることもあるでしょう。しかしその背景には、講師による適切なアドバイスやその生徒さんに合った教材選びがあったことはいうまでもありません。その"きっかけ"を数多く与えることができる教材を使いたい。そんな願いから「プチ・エトワール」が誕生しました。

まずは、「プチ・エトワール」の内容について十分に理解を深めていただき、指導に入る前に、いろいろな方向性でシミュレーションしてみてください。「プチ・エトワール」の使い方は決して1つだけではありません。レッスンにおいて実践していく中で、それぞれの生徒さんの能力、あるいはレッスン環境に適した、様々な活用法を見出すことができるでしょう。

この「**プキ*****エトワール** Q & A」が、講師のみなさんにとって、生徒さんの好奇心、感受性、そして可能性を最大限に引き出すレッスンの手引きとなることを心から願っています。

ローランド株式会社 スクール運営部

■目次

| 4 | コンセプト |
|----|--------------------|
| | 特長 |
| | 教材体系 |
| 5 | 各巻の特長 |
| 6 | 各巻対応のSMF ミュージックデータ |
| 7 | 指導の手引 |
| 8 | 指導法についてのQ&A~総合編~ |
| 12 | 指導法についてのQ&A ~各巻編~ |
| | 指導法についてのQ&A 1巻 |
| 14 | 指導法についてのQ&A 2巻 |
| 16 | 〔3・4巻〕徹底分析 |
| 18 | 指導法についてのQ&A 3巻 |
| 20 | 指導法についてのQ&A 4巻 |
| 21 | 指導法についてのQ&A 5巻 |
| 22 | 指導法についてのQ&A 6巻 |
| | |

■ コンセプト

- (1)3歳からのピアノとオルガンの導入教本
- ②遊び感覚で学ぶことで、音楽が好きになり、鍵盤に興味が湧く
- ③1~4巻には、保護者にも読んでほしい「指導書」を巻末に掲載

■ 特長

- ①1つの本が半年で修了できるので、早いサイクルで達成感が得られる。
- ②はじめは、「うたあそび」「リズムあそび」「けんばんあそび」を通じ音楽に親しみ、徐々にソルフェージュ的な内容が増え、6巻修了時には演奏表現力とテクニックが身につく。
 - ●同じ課題がくり返し出てきます
 - 1・2巻では…音に反応する(音=大小、高低など)
 - 3・4巻では…音を自分なりに表現する
 - 5・6巻では…音楽的に表現(演奏)する
- ③「ワークブック・ワン/ツー」「プール・プチ」を併用し、進度に応じ充実したレッスンが行える。

ワークブック・ワン=3・4巻に対応

ワークブック・ツー=5・6巻に対応

プール・プチ=5・6巻に準拠

■ 教材体系

| 年齢 | 3 歳 | | 3 歳 4 歳 | | 5 歳 | |
|--------------------|------|---|----------|-------|----------|-------|
| 該 当 級 | 16 級 | | 15 級 | 14 級 | 13 級 | 12 級 |
| 主教材 | | | プチ・エトワール | | | |
| 巻 | 1 | 2 | 3 | 4 | ⑤ | 6 |
| 併用教材 | | | ワークブッ | ック・ワン | ワークブッ | ック・ツー |
| 1л <i>п</i> 3 3 19 | | | | | プール | ・プチ |

■ 各巻の特長

1 巻



音楽遊びを通して音楽を体験する喜びを味わうことで、演奏 しようとする能力や感覚が自然に養われる。

2 巻



音楽遊びを通して、読譜力(拍子・リズム・音)を自然に身 につけ、感覚的な演奏能力を保ちながら、少しずつ鍵盤楽器 に興味が移っていくようになる。

3巻



感覚的な演奏能力をもとに、技術だけではなく、イメージを 視覚化(形・色など)することで、音楽のニュアンスを感じ 取る能力が養われる。

4 巻



感じ取ったニュアンスを具体化するため、さまざまなアプローチで音楽脳と言語脳を活性化することで、読譜能力だけでなく、音楽を表現しようとする能力が養われる。

5巻



音楽脳と言語脳とが少しずつ確立していく時期に合わせ、音楽を論理的に把握する内容を加えることで、表現能力と演奏能力が並行して育っていく。

6 巻



1~5巻の内容の集大成として、さまざまなジャンルの音楽に触れることで、年齢にふさわしい表現力を補うための理論やテクニック、またそれに応じた演奏能力が身につく。全巻修了後は、音楽を感覚的に捉え、それをどう表現するかという力が身につき、想像する・創造する・感動する・共感する・協調する・自分を無理なく表現するなど幼児期に培われるべき能力が自然に養われ、もちろんピアノやオルガンへの興味や演奏能力も養われる。

■ 各巻対応のミュージックデータ

「プチ・エトワール」各巻対応のミュージックデータはSMF/GSフォーマットです。再生にはミュージック・アトリエやローランドピアノ・デジタル、MTシリーズが推奨機種です。ミュージックデータの活用法は、単にアンサンブルを楽しむだけに固執せず、「音素材」として最大限有効利用します。「音素材」として最も効果的なのは、もちろん講師による演奏に他なりませんが、ミュージックデータには、演奏しながらでは困難な生徒さんのサポートが可能になり、生徒さんにとっても自宅での予復習が充実するといったメリットがあります。またピアノ音だけではイメージしにくい課題へのアプローチ、ピアノ伴奏とオーケストラ伴奏の使い分けなど、電子楽器やミュージックデータの特性をレッスンに取り入れる、まさに『smm の実践スタートです。

ism とは…新しいテクノロジーをレッスンに導入し、より付加価値の高い音楽教育を目指す考え方を ism (intelligent system of music) といいます。

【1・2巻】



- ●演奏を聞いてリズムを打つ、体をゆらすなど「身体表現」のためのピアノ 演奏が中心です。
- ●「うた」の伴奏にはシンプルなオーケストラがつき、曲想がイメージしや すくなっています。
- ●「リズム打ち」「ボールつき」などは、まず講師がお手本を示し、生徒さんがひとりでできるようになったらテンポやキーを変えて生徒さんの反応を確かめましょう。

【3・4巻】



- ●音高を意識させる課題が出てきます。
- ●いろいろな音色を聞き、生徒さんの抱いたイメージを「ぬりえ」「打鍵」で表現します。
- ●「ワークブック・ワン」の聴音課題データも収録されています。

【5・6巻】



- ●アンサンブル課題が中心で、強弱やアーティキュレーションを表現します。
- ●指くぐりなどのテクニック練習で、テンポキープを必要とするときに 有効です。
- ●和音の響きに敏感になり、オルガン科へ進んだときのコードの感覚を 予備訓練できます。

【プール・プチ】



- ●アンサンブルが楽しめます。
- ●ピアノ演奏のみ再生し、譜読みの練習ができます。
- ●連弾曲では、先生パートとオーケストラ伴奏のどちらかを選んでアンサンブルができます。
- ●発表会などで華やかな演出ができます。

■ 指導の手引き

~プチ☆エトワールで感受性を豊かに~

生まれて間もないこどもが、自分の手をじっと見 つめて少しずつ手を動かしている姿を見たことはあ りますか?いったい何をしているのでしょう。実は このとき、こどもは、その動きと動きの感覚を、視 覚に起こっている変化と連合し、自分の身体と視覚 の関係を理解しようとしているのだそうです。私た ちの脳は、知覚と運動が常にループしています。知 覚から「手を動かしている」という情報が入り、運 動としてその情報が出て行く。出て行った運動の結 果は、すぐに状況が変化している「動いている手」 によってまた知覚を通して再入力される。このよう に、知覚から運動へ、運動から知覚へというループ が脳の中で起こっているのだそうです。「このルー プを脳内でさまざまに用意しモデル化することが学 習である」と北里大学教授・養老孟司先生はその著 書「まともな人」(中央公論新社)で述べています。

プチ・エトワール1巻9ページの「まねっこメロディー」を例に挙げてみましょう。先生は生徒と両手をつなぎ、音の高さによって上下に生徒の手を動かしながら、メロディーを歌います。このとき、生徒はそのメロディーの高さやニュアンスなどを、手のひらの触覚と腕の運動感覚、そして視覚で知覚します。知覚した情報は生徒の脳の中でループされ、まねっこをして同じことを表現していきます。このような活動を通して、生徒は言葉の説明なしで、音の高さやリズムそしてニュアンスを感じ取り、学習していくこととなります。つまり、「脳のなかで行われているできごとを動きによって再認識している」のです。まさに、幼児期における脳の発達を手助けしているということになりますね。

幼児期は、好奇心旺盛です。おとなが当たり前だと見過ごしていることを、この時期のこどもたちは敏感に感じ取り、いろいろな質問を大人に投げつけてきます。「せんせい、あのね。おほしさまはでんきでひかってるの?」「どうしてとべるありさんと、とべ

ないありさんがいるの?」と2歳・3歳のこどもたちは、すぐに説明できないようなことを、レッスン中に突然質問してくるようなことがよくあります。

「ヒトの赤ん坊は、他の霊長類にくらべあまりに早く生まれすぎたために、感受性期が伸びたのではないか」と北海道大学教授・澤口俊之先生はその著書「幼児教育と脳」(文春新書)で述べています。つまり、他の霊長類に比べヒトは、脳が未完成のまま生まれてきてしまい「育児・教育をする」という義務を人類の親たちは長い期間負うはめになった。感受性期が長いので、いろいろなことが教えられるし、逆に教えなければ社会や自然環境にうまく適応できない。そして、未知なものへの好奇心も長い時期芽生えながら発達していくことで、さまざまな感受性が育つと同氏は言っています。ですから、こどもたちは好奇心旺盛になり、たくさんの質問を私たちに投げかけてくるのでしょう。

プチ・エトワール3巻・4巻は1・2巻で養われたさまざまな感受性を、自分の力で少しずつ表現していけるように組み立てられています。たとえば、3巻の演奏のページは、イラストによってイメージを補助し、歌によってそのイメージを具体化し、そのイメージを持って演奏するという組み立てになっています。楽譜を記号として捉えるのではなく、「こどもの好奇心を上手に育てて、音楽のニュアンスを感受性豊かに捉えていく。最終的に、その捉えられたものを楽譜(音符)として変換し、演奏(表現)していけるようになればよい。」という考え方なのです。

このようにプチ・エトワールは、脳科学の実証を 応用して出来上がっているすばらしいテキストです。 先生方も、ひとつひとつの項目を、生徒と一緒に好 奇心を持ってレッスンをしていきましょう。生徒の 好奇心を育てていくことで、生徒だけでなく先生の 感受性も必ず豊かになっていくことでしょう。

指導法についてのQ&A ~総合編~

『プチ・エトワール』の総合的な指導法についてQ&A形式で説明していきます。

② このテキストは6巻の構成で、1・2巻、3・4巻、5・6巻と、それぞれが違った特徴をもった内容のアプローチとなっている印象をもちますが、なぜですか?

A それは幼児期の脳の発達と関係があります。3 歳 (1・2巻) は、脳の基本が出来上がり、前頭葉が発達していく初期の段階となりますが、まだ自分の身近な人の模倣をしていろいろなことを表現する時期です。ですから、レッスンの内容は知的なことよりも、先生やお母さんの様々な活動を"まねっこ"することによって、音楽の要素を自然に身につけていくようになっています。

4歳(3・4巻)になると模倣期から少しずつ脱却して、感じたこと(見たこと・聴いたことなど)を自分の力で整理して表現できるようになってきます。このため、レッスン内容は表現していこうとする力をつける段階になっていきます。

5歳(5・6巻)では、知的なことに興味を持ち、自分の力で様々なことを解決していく段階に入ります。ですから、読譜力や聴音能力などの内容が多くなっています。しかし、気をつけなければいけないのは、技術的なことに偏らずに、いつも1~4巻で身に付けてきた感覚的なことをその中に取り入れなければなりません。知的なものと感覚的なものは、常に脳の中で情報をやり取りしているのですから。

② 3歳(年少)の生徒が入会し、保護者が個人レッスンを希望したので「プチ・エトワール 1巻」をはじめました。しかし、楽器に向かうのは好きなのですが、リズム遊びなど身体を使う活動は恥ずかしがって行いません。この場合、レッスンをどのように進めていったらよいでしょうか?

A こどもによって、楽器に向かうのを嫌がる場合とご質問のような場合と、大きく分けて二つのパターンがありますね。ご質問のパターンでは、先生と保護者がいつも楽しそうにリズム遊びを行い、生徒はそれを見ているだけでかまいません。そのうち、少

しずつ興味を持ってその中に入ってきます。保護者に もしっかりとそのことを説明して、協力してもらって ください。

3歳から4歳は、頭で理解するよりも動いて感じ取る ことが大切です。演奏するということにレッスンの内 容が偏ってしまうと、感覚的な部分が育たないまま音 楽活動をすることになり、音楽の内面的なものが感じ 取れなくなる可能性があります。

先生と保護者にとっては忍耐の必要なレッスンになってしまいますが、いつも笑顔で楽しくリズム遊びをしていくように心がけましょう。

② 3巻に進んだ生徒が創造的な活動に興味を示し、「たかいひくいゲーム」などはレッスン時間が終わってもまだ続けたいといって、レッスンに歯止めが利かなくなってしまうことがあります。このままですと、読譜やフィンガー・トレーニングがおろそかになってしまう可能性があるのですが、どうしたらよいでしょうか?

A それは、先生や保護者にとってレッスンなのか遊びなのか、区別がつかなくなってしまうような状態ですね。しかし、こどもはひとつのことに興味を持つと、それ以外のことが見えなくなってしまうのが当たり前のことだと思います。

この場合は、とにかくしばらくこどもに付き合ってあ げること、そして少しずつ興味の対象を他のことに向 けていくことができるような環境作りが大切です。

最初から、時間で課題を区切るのではなく、興味のあるものに時間をかけてあげること。それでも、レッスンの時間は30分しかないということも自覚させることができるように、保護者と協力をしていきましょう。一緒に遊んであげながら、今日のレッスンの目的は先生がしっかりと把握し、遊んでいるうちにその目的を果たしていける内容がベストですね。

時間はかかるかもしれませんが、こどもによって進度 や目的はさまざまだと思います。同じテキストを使っ ているからといって、すべての生徒が同じように進む わけではありません。 多少、トレーニング的な内容が後回しになっても、こどものペースを崩さず忍耐強く指導していってください。必ず心の成長とともにこどもの興味も変化していきます。保護者にもしっかりとそのように説明して、協力していただきましょう。

② ソルフェージュの「ことばのメロディー」など、 遊びながら行う課題には方法が幾通りもあると 思いますが、参考例を教えてください。

▲ では、3巻のp.13でご説明しましょう。

- ①「ばら」の音の高低を確認したら、腕の動きで高さ を表しながら「ばら」と言ってみる。
- ②「ばら」と言いながらターターでステップし、腕の動きで高さも表す。
- ③「ばら」と言いながら鍵盤をクラスターで弾いてみる。このとき出している声の高さの違いと、鍵盤の音の高さとの違いとを一致させるようにする(ただし、あくまでも高低の差であって、声の高さと鍵盤で出した音の高さを一致させるものではありません。つまり、「ばら」の「ば」の声の音がE4だからミということではありません)。
- ④「ばら」と言いながら手のひらで花の形を作り、そのテンポ(ビート)に合わせて花を咲かせたり、つぼませたりする。(手の中に薄くて柔らかいスカーフがあると雰囲気が出ます) このときも、声の高さと腕の動きを一致させるとよ
- いでしょう。

⑤ターターでステップしながら、4を行う。

このように、「ことばのメロディー」は普段会話の中で意識しない、ことばの微妙な高さ(イントネーション)の違いを意識させることによって、音の移り変わりを感じ取らせることが目的のひとつにあります。リズム遊びなどを応用し、さまざまな方法を工夫することによって、集中力が持続する楽しいレッスンが展開できるでしょう。

Q 3巻の「たかいひくいゲーム」で音高の判断が できないこどもには、どのような指導をしたら よいのでしょうか。

- A 音の高さは、同じ年齢でもすぐに判断できるこどもと、かなり丁寧に指導してもなかなか判断できないこどもがいますね。最初の段階で「この生徒は判断ができない」とわかったら、次のような段階を経て、徐々に自分の力で判断できるようにしていきましょう。
- ①生徒を鍵盤が見える位置に立たせ、先生が高い音を弾いたあと、「こっちの音は頭を触りましょう」と指示をする。次に、低い音を弾き「こっちの音はつま先を触りましょう」と指示する。そして、先生の弾いた音に合わせて「頭」「つまさき」と言わせながら動作をさせる。
- ②生徒を鍵盤が見える位置に立たせ、「頭」または「つまさき」と言う代わりに、「高い」または「低い」といわせる。(この段階では言葉の意味がわからなくてよい。単純にものの名前のようにして教えます)
- ③生徒を鍵盤が見えない位置に立たせ、「こっちの音が聞こえたら、できるだけ高いところへ手をのばしてみよう」と指示し、できるだけ高い音を弾く。「こっちの音が聞こえたら、床をさわってみよう」と指示し、できるだけ低い音を弾く。次に、「どっちがきこえるかな」と質問して、高い音か低い音を弾き、どちらかの動作をさせてみる。(正解だったら、おもいきりほめてあげましょう)次に、「手をのばしたほうの音は、高い音になるんだよ」と説明し、「これは高い音」と教えてあげる。「低い音」も同様に指導。
- ④慣れてきたら、中音を加えていく。そして、グリッサンドや強弱などの細かいニュアンスに反応できるようにしていく。(ミュージックデータを参考にしてください)

このように、抽象的な音の概念は、動作をしてから言葉にすることで具体的なものになります。最初は、言葉の意味がわからなくても繰り返し活動していくことで、音→動作→言葉の意味とつながっていき、具体的な概念となっていきます。

また、レッスンの進み具合がこの項目だけ遅くなっても心配せず、あせらずにこどもの発達段階や能力を考慮してレッスンを進めてください。すべての項目が順調に進むことよりも「こどもが何を感じどう表現するか」が大切です。

この指導法はひとつの例です。 1 巻や 2 巻にも音の 高さを扱ったいろいろな活動がありますので、その 応用も試してみましょう。 ② ミュージックデータは、レッスンでこどものイメージを広げるために活用していますが、3巻の「たかいひくいゲーム」やワーク1の「どんなおと」などは、こどもが聴きたがらない場合があります。このような時、どのように対応したらよいでしょうか。

A プチ・エトワールは、音楽のさまざまな要素を 具体的なイメージとして捉えられるように工夫 されています。ミュージックデータもご質問にあるよ うに、イメージ作りのために利用するよう、ひとつの 例として効果音のような音が入っています。

この音を楽しんで聴いているこどもは問題ないのですが、子どもの性格や感受性によっては、怖がったり嫌ったりする場合もあるでしょう。このときは、無理にデータを使うのではなく、先生の声やリコーダー、スライド・ホイッスル、打楽器などで代用してみてはいかがでしょうか。目的がはずれていなければ、常にデータの効果音でなくてもよいのです。

② 演奏には積極的に取り組むのに、ソルフェージュ的なことになると消極的になってしまう生徒に対して、特に3・4巻ではどのように指導したらよいでしょうか。

A 4歳ぐらいのこどもは、自我が芽生え、自分の 好みがはっきりしてきます。ご質問のように積 極的に取り組む項目とそうでない項目が出てくるの は、ごく自然な成長段階と考えましょう。そこで大切 なのは、いかにしてこどもの興味をソルフェージュ的 なことに向けて行くかということになります。

たとえば、3巻14ページの二分音符・四分音符・八分音符の聴き分けでは、いつもフレーズごとにリズムを変化させる演奏ではなく、8拍後に変えたら次は6拍後、次は2拍後など、フェイントを掛けるだけでゲーム的な要素が加わり、興味を向けてくれるようになります。また、4巻の「すこしかえてつくりましょう」は、先生がメロディーを「すこし」ではなく「極端」に変えて弾いたり歌ったりし、音楽的な不自然さを味あわせた後、課題のとおりに「すこしかえて」メロディーを変化させてみることで、こどもの興味が変わってくると思います。

いずれにしても、こどもの気持ちになって一緒に楽し んでみたり、こどもの興味を引くために少しこどもの 気持ちよりも前に立ってこどもを引っ張ってあげたりし、一回のレッスンだけではなく「数年間でこどもが どのように課題に取り組んで楽しめるようになるのか」と、長期的な視野に立って一回一回レッスンをこなしていくことが大切だと思います。

4月より3巻に入る生徒の保護者に、「1・2巻 と見た感じも含め、違う内容のテキストに思える のですが、こどもがついていけるのでしょうか」と質問 されました。どのように、答えればよいのでしょうか?

A 確かに、1・2巻の流れが3・4巻にもあるか どうかは、イラストの感じも含め、見た目には 理解しづらいかもしれません。

このテキストはこどもの発達段階をかなり考慮して作成されています。ですから、見た目ではなく講師の皆さんのレッスンの内容で、1巻から6巻までの流れを作らなければなりません。

保護者の皆さんには、「各テキストはこどもの脳と身体の発達に合わせて、そのときに一番必要と思われるレッスンの内容だけがテキストに書かれている」ことを説明し、「各巻の道筋は講師がお子さんの能力に合わせて作っていく」とお話してください。

言い換えればこのテキストは、講師の日ごろの実践と研究がそのままレッスンの内容に反映され、こどもたちだけでなく親も先生も、一緒に楽しんでいけるものなのです。1・2巻で行ったリズム遊び的なものも3・4巻で取り入れながら、なんとなく想像したことを具体的な言葉や音楽として創造していけるこどもを育ててあげてください。

4月より5巻に入る生徒がいます。4巻から5巻に移るときに、3・4巻で培ってきたイメージの部分をどのように応用していけばよいのでしょうか?

A こどもたちは5歳になると知的な部分が急速に伸びてきます。5巻と6巻は、3・4巻で培ってきたイメージを、実際に演奏した音楽と少しずつ一致させていくように組み立てられています。具体的な指導法はテキストに書かれていませんが、こどもの感受性や読譜力そして表現力に合わせて、音楽を物語に

置き換えたり、風景に置き換えたりして、イメージを 膨らませてあげましょう。「各巻の道筋は講師がお子 さんの能力に合わせて作っていく」ことをいつも意識 して、こどもたちが音楽と一生友達になれるように、 日ごろの研鑽を積んでいってください。

A 演奏オーディションでは、担当の先生に連弾曲の先生パートを弾いていただいてもかまいません。ただし、生徒さんにとって「常に先生がついているとも限らない」という環境での経験も必要ですし、先生のご負担を想像すると、ミュージックデータとのアンサンブル経験も必要かと思います。ちなみに、オーディション会場で用意されている「演奏オーディション専用ミュージックデータ」には連弾用が収録されていますので、それで受験することもできます。練習用データにも連弾伴奏があるのはご存知ですね。

理想は、教室でのレッスンは先生やデータとの連弾指導、自宅での練習はデータとの連弾という形です。そして、オーケストラとのアンサンブルでさらに楽想を豊かに捉えることができれば効果的です。

※連弾形式での受験を希望される場合は、申込書にミュージックデータとの連弾か、担当の先生による伴奏かがわかるようにお書き添えください。また、「演奏オーディション専用ミュージックデータ」ではあらかじめ2小節のカウントが鳴るようにセットされています。普段のレッスンでもミュージック・アトリエや、デジタルピアノ、またはMTシリーズのカウントイン機能を使い練習しましょう。

「プチ・エトワール」ミュージックデータの中には、拍のない曲がいくつかありますが、具体的な使い方を教えてください。(4巻『ほし』、5巻『ひなたぼっこ』『はじめてのきょく』、6巻『みずにうつったかげ』『ゆめのなかのプレゼント』)

A アンサンブルを行なう際に、「リズムに乗り遅れ たりしないように、きちんと合わせないといけ ない」という精神的な負担を感じることはないでしょ うか。実際、リズムのはっきりした曲は、そのテンポ やリズム(ゆれなども含めて)に乗ってきちんと合わ せることが前提となります。しかし、「プチ・エトワ ール」のミュージックデータには、拍の存在しないバ ック演奏に乗って、自由に演奏(弾き始める箇所、テ ンポなど) する曲も新しい試みとして何曲か取り入れ てあります。慣れないうちは難しく感じる場合がある かもしれませんが、慣れるにしたがって、徐々に気持 ちよく、自分自身の表現で演奏することができるよう になります。一定のリズムに合わせる、というパター ン以外に、アンサンブル演奏のひとつの楽しみ方とし て、ぜひ経験させてあげてください。バック演奏が 「ホワァーッ」と鳴っている中で、先生と生徒は自由 に始めてもいいのですが、先生と生徒の間では、きち んと "合わせる" アンサンブルをします。 生徒のみで アンサンブルする場合は、先生パートをマイナス・ワ ンしてから行なってみましょう。

② このテキストは、「イメージ」を大切にしている内容がたくさん含まれていますが、生徒のイメージ作りをするためには、私たち講師の想像力を高めなければと思います。具体的にどのようなことを心がければよいのでしょう。

A イメージというのは抽象的で、とくに音(メロディー・ハーモニーなどの響き)はなかなか言葉にしにくいものですね。私たちは、音楽を聴いたときそれをすぐ音符に変換してしまう癖を持っています。もちろんそれも大切なのですが、そのとき同時に、「あるものごと」に当てはめることをしてみると、イメージが広がっていきます。たとえば、ある響きを「タンポポの黄色」や「チューリップのピンク」に当てはめてみるとか、ある曲を「季節」にたとえて、その季節の中でどのように天気が移り変わっていくのか、などを考えてみましょう。そうすることによって、抽象的な音楽が具体的な言葉となり、イメージが浮かんできます。普段から漠然と音楽を聴かずに、このような意識を持つことで、こどもたちへの指導方法も変わっていくことでしょう。

指導法についてのQ&A ~A巻編~

『プチ・エトワール』の各巻ごとの指導法についてQ&A形式で説明していきます。

【1巻】

| ページ | # | Question | Answer |
|-----|------------|---|--|
| 4 | こんにちは | 3 歳の生徒がすぐにピアノで「こんに ちは(♪♪♪)とまねをしてくれるのでしょうか。 | はじめはピアノではなく、本の絵を打ちましょう。お話をし、気持ちをほぐしながらしましょう。お母さんもいっしょに打ちましょう。 |
| 5 | おゆび | 指番号は具体的に指示しなくてもよい のでしょうか。 | いろいろな指で鍵盤に触れることが大事です。指番号は 出さないで、5本の指で弾く経験をさせてあげましょう。 |
| 6 | チューリップ | 具体的にどのような手合わせをしたら よいのですか。拍子を感じ取るのかリ ズムを感じ取るのか、どちらですか。 | ①手拍子(自分の手を打つ)→手合わせ(相手の手を打つ)の 2拍子を感じ取るもの。②歌のリズムをお母さんや先生 と手合わせするものの2種類両方行ないましょう。 |
| | | 2種類を一度に行なって、混乱しません か。 | 3歳のこどもにとっては、経験することが大事なことです。 ひとつの歌で、スィング感・拍子感・リズムなど、いろ いろと経験させてあげましょう。 |
| 8 | なかよしさん | 音高の違いやニュアンスの違いを、動物のイメージと結びつけるのですか。 | 音の高さの違いは抽象的なものです。動物のイメージと結びつけて、具体的にわかりやすくしてあげましょう。そして、だんだんイメージを広げていきましょう。たとえば、赤ちゃんのぞうさんがお散歩しているように、高い音でゆっくり弾くなど、同じぞうさんでも表現が変えられます。 |
| 10 | あたま はな みみ | 身体を打つ数は、何回ぐらいがよいの でしょうか。 | こどもの様子(反応)をみながら合図をかけましょう。安定してきたら、変えていくとよいでしょう。できるようになったら、2や3といった少ない数に変えていきましょう。先生の合図をよく聞こうとすることで、集中力も高まります。 |
| 11 | むしとおはな | ただ数えることに何か意味はあるのですか。 | 続けて数えることで拍子が感じられます。小さい丸を指すことは、集中力が必要になります。先生が2,3,4拍子の曲を弾いてあげると、より効果的です。 |
| 13 | りすさんとうさぎさん | 身体表現ですか。指だけの活動ですか。 具体的な活動を教えてください。 | 基本的には手の活動です。先生のピアノに合わせて、うさぎは手をグーにしてピョンピョンピョン(♪♪)といいながら本を打ちます。ピアノが止まったら穴のところで止まります。リスは指で、カリカリカリカリやトトト(刀刀)などといいながら、本を打ちます。ピアノが止まったら木に隠れましょう。 |
| 14 | いろいろなおと | スティックでものを打つというのは抵抗 がありますが。 | いろいろなところをコントロールよく打つことで、強弱・遅速などの経験ができます。 壊れやすいもの、傷付きやすいものはやさしく扱うという気持ちを大切に打たせましょう。 |
| 18 | いくつかな | 先生の ♪ ♪ という合図は、言葉と手拍子 のどちらですか。 | 言葉での合図です。 たとえば、「さんはい」や「どうぞ」 といいましょう。 |
| 20 | なかよし3にんぐみ | いろいろなニュアンスというのは、たと えばどんな感じでしょうか。 | 「くまさんのように、強くゆっくり低音で」 「りすさんのように、軽く速く高音で」 「うさぎさんのように、スタッカートで元気に中音で」 などのように指示して、先生が実際に音を出してあげて もよいですね。 |

| ページ | 曲目 | Question | Answer |
|-----|------------|--|--|
| 22 | かたつむり | 2 拍子の手合わせとは、何か形が決まっているのでしょうか。 | 手合わせは、相手(先生やお母さん)と手を合わせることです。自分の手を1拍目で打ち、2拍目で相手と両手を合わせます。 |
| 24 | ふうせんふわーふわー | リズムを変えると J を学ぶことから はずれませんか。 | 3 つの鍵盤を意識することが目的ですから、リズムやテンポが変わっても構いません。速いテンポでできる生徒は、りすのイメージで♪でもよいですね。 |
| 25 | まねっこメロディー | 手はどのような速さで振ればよいでしょうか。 | ↓と↓の両方で行ってみましょう。 |
| 26 | ことばのリズム | 言葉を打つ効果は何ですか。 | 言葉の拡充や読みの練習とともに、数の認識を音楽的に 経験することです。 |
| | | 先生の出すテンポにこどもが合わない 場合どうしたらよいでしょうか。 | 先生と一緒に同じ言葉を繰り返し言わせましょう。そのとき、先生は生徒に呼吸が感じ取れるようにすることが 大切です。 |
| 29 | いろいろなリズム | スティックではなく、他の楽器で行なってもよいのでしょうか。 | もちろんです。タンバリン・カスタネット・鈴だけでな く、手作り楽器などでも楽しいですね。 |
| 31 | たなばたさま | ○の指さしを歌の最後まで行うのです か。 | はい、最後まで行います。○は7つなので、フレーズの 最後の4分休符で、最初の○へもどりましょう。 |
| 33 | ケーキをつくろう | 「こっつんぱっ」の具体的な動作を教えてください。 | 『こっつん ぱっ』は、「こっつん」といいながら頭で卵の殻を割る動作を、二分音符で行います。続けて「ぱっ」は殻を開いて中身を出す動作を、二分音符で行います。他の動作はテキストのとおりのリズムです。こども・お母さん・先生が役割を分担して同時に行なうことで、複リズムが体験できます。 |
| 34 | うみ | 「ひざを曲げ伸ばししながらゆれる」と いうのは、上下にゆれるのですか。 | 横にゆれます。「ひざを曲げ伸ばししながら」というのは、 「ひざをやわらかく使って」という意味です。 |
| 36 | いっぽんめのたけのこ | たけのこが横になっているのは、どう してですか。 | 四分休符を表しています。横のたけのこは手をグーにして「スン」といいましょう。 |
| | | 右手だけや左手だけで弾くときの指遣 いは決まっていますか。 | どの指でも構いませんが、3と2が弾きやすいですね。 |
| 37 | みぎてとひだりて | 先生のピアノは左手が低音、右手が高 音と弾き分けるのですか。 | 基本的には拍子の課題なので、普通に3拍子や4拍子を 弾いてください。低音と高音を意識させるためには、質 問のように弾いても面白いと思います。 |
| 41 | かわりばんこ | | 聞き分けは、一種類の拍子ごとです。続けて打つことは できますから、先生の合図やまねっこすることで経験さ せましょう。 |
| 46 | ボールつき | ボールをつくことは、2週間でできるようになるのでしょうか。 | こどもの発達段階と運動の経験によって差があります。 毎週レッスンの前や後に、遊び感覚でボールを扱うこと をお勧めします。ボールの扱いがじょうずになると、リ ズム感や集中力が身につきます。 |

【2巻】

| ページ | 曲 目 | Question | Answer |
|-----|---------------|--|---|
| 5 | おうちをつくろう | それぞれの活動の具体例を教えてくだ さい。 | 基本的には、「ギコギコ」「よいしょ」「トントン」といいながら本を打ちます。応用としては先生の工夫で、二分音符・四分音符・八分音符が感じられる動作を考えて、楽しいレッスンを心がけてください。 |
| 7 | どんぐりころころ | 塗り絵や動作つきの歌のほかに、どのような活動がありますか。 | 4 拍子の手合わせや、歌のリズムを打つこともできますね。 |
| 9 | ことばとかず | 1から5までの数を続けて言う場合、 数は順番のほうがよいのですか(き・ くま・おはな・きつつき・おんなのこ、 のように)。 | はじめは少ない数から、次に多い数から順に行ったほうがやさしいでしょう。慣れてきたらバラバラにすることで緊張感や集中力が出てきます。言葉を言うときは、呼吸を大切にしましょう。 |
| 11 | やまのおつきみ | 拍子の課題に発展させてもよいのでしょうか。 | もちろんです。先生の弾く2,3,4,5拍子に合わせて数 えたり、先生の弾く音楽が何拍子なのかをお母さんと聞 き分けたりしても楽しいですね。 |
| 12 | どれをひきましょう | 「げんきにあるこう、ど・れ・ど」にメ ロディーをつけるのでしょうか。 | メロディーをつけずに、ビートにのって言葉だけで構いません。しかし、先生が簡単なメロディーをつけるとさらに楽しくなるでしょう。 |
| 14 | てをたたきましょう | 手を打ったり足踏みしたりするときは、 リズムを変化させてもよいのでしょう か。 | とてもよいことだと思います。「タン・タン・タン」を 「タ・タ・タ・タ・タン」や「ターン・タン」「トトー ン・トン」などいろいろと変えてみましょう。 |
| 15 | 2と3と4のおうち | 続けて数えるというのは「12・123・ 1234」、「12・12・12~」どちらでしょうか。 | 最終的には「 $12 \cdot 123 \cdot 1234$ 」と続けて数えられることが望ましいですが、生徒の能力に応じて「 $12 \cdot 12 \cdot 123 \cdot 123 \cdot 123 \cdot 1234 \cdot $ |
| 16 | みかんのみをさがしましょう | 「ドレミ」以外の「ミミミミレド」の ところは弾くのでしょうか。 | 「ドレミ」だけ弾ければよい課題ですが、生徒の能力に応じて弾かせても構いません。 |
| 18 | もりのくまさん | 歌うほかに指導法はありますか。 | 掛け合いで歌うとき、手拍子や打楽器で自分が歌わない メロディーの言葉のリズムをたたきながら行なってみま しょう。 |
| 21 | ボールつき | 1巻で2拍子が出てきましたが、3拍子との聞き分けも行うのでしょうか。 | できれば行なってみましょう。先生の弾く曲が何拍子なのかを、お母さんと考えてボールをついてみましょう(曲はこどもたちがよく知っているものでも構いません)。 |
| 22 | サンタクロース | 輪唱のはじまりを教えてください。 | 2 小節遅れで行うのが一番歌いやすいと思います。すこし難しくするには、 1 小節遅れあるいは、 2 拍遅れにしてみましょう。 |
| 23 | ツリーをかざろう | プレゼントの中身は、リズムや拍子に つながるものを考えたほうがよいのです か。 | 自由に考えてよいと思います。クリスマスの楽しい話をしたり、クリスマスのほかの歌も扱ってみましょう。そして、いろいろと工夫してリズムや拍子に結びつけたレッスンも楽しいですね。たとえば、 ○の中には J (あめ) のリズムのプレゼントが入っています。 △の中には J (ドーナツ) のリズムのプレゼントが入っています。 □の中には J (キャンディー) のリズムのプレゼントが入っています。 さあどんなリズムのプレゼントでしょう? というような結び付け方もできます。 |

14

| ページ | 曲 目 | Question | Answer |
|-----|----------|---|--|
| 25 | まねっこリズム | 先生の打つ場所が部屋のあちらこちらでは、移動する時間もあるのですぐに 真似ができないと思うのですが。 | 続けて打つときは、上・下・横などからだのまわりを打ちましょう。 |
| 30 | ロンドンばし | どんな手合わせですか。 | 2拍子の手合わせです。自分の手を1拍目で打ち、2拍目で相手の手と合わせます。 |
| 34 | たこたこあがれ | かわりばんこに歌うのは何か意味があるのですか。 | 歌によるフレーズの体得です。そして、」や「で糸を引っ張る動作をしながら歌うことで、ビート感も養われます。 |
| 37 | おかいものリズム | お店に行くほかにどのような活動があ りますか。 | いろいろなお店で売っているものを、リズムと結びつけてさまざまなリズムを経験しましょう(アメ」」・ドーナツ J |
| 46 | カードひろい | カードは、作って用意したほうがよいのでしょうか。 | そうすれば、より楽しくわかりやすくなりますね。 「どんぐり」の絵の後ろに「♪」 「にんじん」の後ろに「↓」 「りんご」の後ろに「↓」を書いたカードを作れば、先生 の愛情が感じられると思います。 |

[3巻・4巻] 徹底分析

本を開くときれいな色のイラストが目に入り、楽しそう・・・

こどもは喜びそうだけれど今までとは内容が違っていて、使い方がちょっと分からない・・・ 興味はあるのだけれどちょっと難しいかな?

3 · 4 巻に対してそんな声がときどき聞こえてきますが、そんなことはありません。 ちょっと考え方の視点を変えてみませんか?

この年齢のこども(4歳)は、1・2巻で音楽遊びや 模倣活動を通して、身体で音楽を表現しながら「音楽 脳」ともいえる「右脳」にためこんだいろいろな感覚 を、具体化していく時期にあります。それぞれのレッ スンは、

- ①イラストなどによる絵譜
- ②ソルフェージュ
- ③練習曲

と大きく3つのジャンルに分かれています。

Þ

【絵譜】

このレッスンは、こどものイメージを作り、それを発展させていくために、歌ったり弾いたりそれ以外の方法で表現していきます。それぞれの曲を聴いたり歌ったりして、こどもが自分の言葉で、その曲から受けるイメージを話していけるように指導しましょう。その結果、抽象的なイメージが、具体的なものになっていきます。最初は言葉にならなくても、こどもは心の中にたくさんのイメージを持っています。それを上手に引き出してあげるには、時間がかかるかもしれませんが、いろいろな会話をして「先生だったらこんなふうに感じるよ」と提示してあげましょう。そうすることで、少しずつこどもから言葉が出てくるようになります。

そして、引き出されたイメージを使って、こどもが今できることや、できるようになるためには何をしてあげればよいかを、次に考えましょう。それぞれのページに描かれているイラストを手がかりにすると、こどもの発達段階にあった方法が見つかるはずです。そこには、1・2巻の応用もあります。四季折々の曲が載っていますから、レッスン時の季節にふさわしい曲を選べばイメージしやすくなりますし、逆に全く異なる季節を選ぶことで、思わぬ想像力が働くかもしれません。それもまた楽しいものです。

1点C音を中心にした音域ばかりを弾くのではなく、 88鍵を自由に触れることで鍵盤楽器の豊かな音域も 経験できますし、今後楽譜上で音域が広がっていくと きの、視覚的・聴覚的な助けにもなるでしょう。 また、「ゆき」のように7/8拍子の曲もありますが、 日本語は俳句などにみられるように、7文字はなじみ やすい数です。変拍子と捉えずに7文字として考えれ ば、自然に耳に入っていくことでしょう。

「絵譜」は

- ①歌う
- ②伴奏に合わせてリズムを表現する(例:こいのぼり)
- ③伴奏に合わせて擬音を表現する(例:あめ)
- ④伴奏に合わせてメロディーを部分的に弾く・または オブリガートのような表現をする(例:そら) など、レッスンの中でこどもと先生が自由な発想で曲 を仕上げていくことができます。その子なりの到達点 を見極めてあげるのも、先生の腕の見せ所です。先生 の伴奏で分かりやすいイメージにしてあげたり、ミュ ージックデータを使ってこどもが弾く部分を助けてあ げたりと、方法は限りなくあります。

曲の中に歌う部分、打楽器を使う部分、実際に弾く部分をバランス良く散りばめれば、ミニコンサートや発表会などで、長い曲に挑戦することも可能です。例えば、3巻の「おおきなふるどけい」(p.40)、4巻の「ジングルベル」(p.21)などは、恰好の素材ですね。

♪

【ソルフェージュ】

この項目は、

- ①リズム・拍子などのメソード的な要素 〔言葉と数〕 〔リズムカード〕
- ②音の高さを認識するためのゲーム的な要素 (3巻のみ) 〔たかいひくいゲーム〕 〔おとあてゲーム〕
- ③ 即興的にメロディーを作り出していく創作的な要素 〔つづきをつくりましょう〕

(すこしかえてつくりましょう)

の3つの分野に分かれています。この年齢は、数の概 念が少しずつ発達し、言葉の語彙も急速に増えていき ます。ですから、先生のアプローチ次第で、遊びなが ら演奏に必要な理論と実践・イメージと表現力・創作 力が自然に養われていきます。

①リズム・拍子などのメソード的な要素

(言葉と数) は、車両の中に関連性のあるものの名前を考えさせ、最初のうちは一文字一音価で行いましょう。このとき、出だしのテンポを保つことと、途中で止まらないようにしていくことが大切です。そのことで、テンポのキープができるようになり、ビート・拍子・リズムを感じ取ったり、表現できるようになったりしていきます。ものの名前が出てこない生徒に対しては、先生が例を示してあげましょう。そして、一文字一音価に慣れてきたら、すべてのものの名前を同じ拍子の中に入れて、言えるようにしていきましょう。

■一文字一音価の例

■同じ拍子に入れる例

〔リズムカード〕は、1・2巻で表現してきたリズムを楽譜として捉えるための活動です。先生が、そのリズムの特徴をあらわす即興演奏でリズムを提示してあげると、単なる音価としてではなくリズムのイメージが生徒の中にそなわっていくでしょう。もし、無理な場合は打楽器や効果音(SE)などで提示してください。このときも、音価だけでなくそのリズムのニュアンスを強弱などをつけて表現することが大切です。

②音の高さを認識するためのゲーム的な要素

〔たかいひくいゲーム〕〔おとあてゲーム〕は、3巻の巻末にある「指導の手引き」をよく読んで、指導内容を工夫しましょう。先生もいっしょに楽しむことが大切です。最初は、音域の広い「高いか低いか」の単純なゲームから始めて、徐々に音域を狭くしていくこと

で音(音楽)に対する敏感な感性が養われていくことでしょう。

③即興的にメロディーを作り出していく創作的な要素 [つづきをつくりましょう (3巻)] [すこしかえてつくりましょう (4巻)] は、3つの音の並べ替えから徐々に音を増やしていき、パズルのようなゲームから最終的にはメロディーを即興的に作っていくようになっています。この活動も、最初は先生がたくさんの例を出してあげましょう。導入段階では先生の真似をするだけでもかまいません。模倣を繰り返しているうちに、必ず自分で作りたくなり、それが創造力につながっていきます。先生の創造力も大切ですね。

【練習曲】

イメージを広げ・表現力を高め・創造力を深めていきながら、それを演奏で表現しようとするためには、どうしてもテクニック的なことは必要となります。そのため練習曲のコーナーがあるわけですが、この年齢の子どもは体力的に指を支える力や、腕を柔軟に動かす筋力は未完成です。ですから、必要最低限の技術を無理のない程度に身に付けさせて、5巻に入ることが大切です。具体的には、姿勢・手の形・指先で弾く・自分のイメージ(先生のイメージでもよい)にあった音色が出せるタッチなどに重点をおいて指導します。上手にできなくても、その先へ進んだときにこの時期に気をつけていたことが、体力がつくとともに必ずできるようになっていくからです。

レッスンの内容は、こどもの発達段階に合わせてそれ ぞれのこどもにふさわしい内容で指導していくことが基 本です。 A ちゃんにはうまくいったことでも、 B ちゃんにうまくいくとは限りません。ここで、お話したポイントもひとつの事例として実践し、生徒の成長過程を 判断しながら先生ご自身が工夫をし、日々研鑚を積まれてすばらしいレッスンを展開していってください。

【3巻】

| ページ | 曲目 | Question | Answer |
|-----|--------|------------------------------------|--|
| 6 | ゆびばんごう | 指番号を覚えさせるために 5 曲も必要 がないと思うのですが。 | たしかにそうかもしれませんが、生徒によっては、5曲 たっぷり使ってやっと指番号が理解できる場合もあります。ここは「指番号を覚える」ためのページではありますが、それだけでは簡単な生徒には、このページの使い方を工夫してみましょう。例えば一曲を使って、①その指の色々な面白い体操を考えてあげて、楽しむ。②鍵盤の音色を打楽器音にして、伴奏に合わせて歌いながら、その指だけで曲にあったリズムやニュアンスであちこちの鍵盤を弾く。などなど、オリジナルの使い方を考えてみてください。そしてこのページはこのレッスンだけで後は使わないというものではありません。生徒が楽しんでレッスンをしていける工夫をしてみましょう。5曲の譜例はあくまで「譜例」です。オリジナルの替え歌が浮かんだらぜひ試してみてください。 |
| | | | うしろのページを見ながらレッスンはできませんね。レッスン前に見て、練習したり覚えたりして、レッスンに 臨みましょう。 |
| 8 | こいのぼり | を求めてますが、4歳児が3種類(高、 | 4歳児が高中低を弾き分けることを、自分で考えさせるのではなく、紙面上の上中下と音高の関係を、「紙のこっちのほうに描いてあったら、鍵盤ではこっちのほうなんだ」そして「こっちのほうを弾くとこんな音がするんだ、こっちのほうとはこんなふうに違う感じがするんだ」と、体験することが目的です。つまり生徒に対して質問式に「さあ、このこいのほりはどこを弾くの?」と考えさせる方法ではなく、①あらかじめオクターヴの中でのソの場所を覚えさせておく。 ②弾く指を決めさせる。 ③ミュージックデータがない場合でも、まずは、先生は伴奏を弾かず生徒と一緒に歌うだけにする。 ④「先生がこのこいのぼりを指したらこっちのほうのソを弾くのよ」と、歌いながら腕を運んであげる。 ⑤「今度は先生がこいのほりを指すだけでそっちのほうに行けるかな?」と一人でやらせてみる。 ⑥ミュージックデータがない場合に先生の伴奏と合わせる際、先生は伴奏を弾きながら「高い」などと声かけをする。この場合、ピアノだと譜例どおりの場所では先生と腕が重なるので、高音域に上中下をまとめてもよいでしょう。ミュージック・アトリエなら伴奏を上鍵盤だけで弾けるようにしてみましょう。 |

18

| ページ | # | Question | Answer |
|-----|----------------|---------------------------------------|--|
| 8 | こいのぼり (つづき) | | そしてさらに、もっと様々なレベルに合わせた使い方が 出来ます。 例えば簡単な順に |
| | | | ●歌いながら拍子を全曲通して手でたたく。 ●歌いながら拍子を全曲通して打楽器音にした鍵盤で打つ(ミュージック・アトリエは足鍵盤でもよい)。 ●歌いながら「♪」」」を 1 小節おきに手でたたく。 ●歌いながら「♪」」」を 1 小節おきに打楽器音にした鍵盤で打つ(ミュージック・アトリエは足鍵盤でもよい)。 ●歌いながら「♪」」」のリズムを全曲通して打楽器音にした鍵盤で打つ(ミュージック・アトリエは足鍵盤でもよい)。 ●歌いながら「♪」」」のリズムを 1 小節おきに手でたたく。 ●歌いながら「♪」」」のリズムを 1 小節おきに打楽器音にした鍵盤で打つ(ミュージック・アトリエは足鍵盤でもよい)。 ●歌いながら上記のリズムを 1 小節おきに打楽器音にした鍵盤で打つ(ミュージック・アトリエは足鍵盤でもよい)。 ●歌いながら「♪」」」のリズムで 1 小節おきにつきる音の変化なく同じ場所で弾く。 ●歌いながら「♪」」」のリズムを 1 小節おきに音高の変化をつけて打楽器音にした鍵盤で打つ。 |
| | | | など、前に示した一番レベルの高い方法の以前に、これだけの段階が考えられます。生徒によっては低いレベルの使い方だけで終わってもまったくかまいません。とにかくこの曲を音楽として豊かな感性で楽しめるよう指導しましょう。 |
| 16 | あめ | この段階で身体表現は出来るのですが、 弾くのは難しいと思います。 | しっかり「弾く」テクニックをレッスンするのは練習曲のページです。質問にある「演奏のページ」はあくまで「音楽体験」です。考えさせるのではなく体験させる、という基本に立って判断しましょう。保護者にも自信を持ってそう説明してください。 |
| 24 | たなばたさま | 加線、フラットの説明が無いのですが。 | 様々な音楽表現・強弱によるイメージの違い・変わった拍 子感の持つ独特のニュアンスなどを、この年齢でぜひ説 |
| 28 | うみ | イメージだけで弾くにしても、この段 階でこの曲は難しいと思いますが。 | 明なしで体験しておいて欲しいという考え方で作られています。全曲弾きこなすというよりも、部分参加でかまいませんので、「生徒が音楽表現に参加した」という感 |
| 36 | はなび | 生徒が弾けません。どうしたらよいの でしょうか。 | 動を作ってあげられるような、レッスンを心がけてください。 |
| 40 | おおきなふるどけい | 先生とのアンサンブルはタイミングが難 しいのですが。 | 伴奏譜などにも示してある生徒の演奏は「一番レベルの高いパターン」または「曲としての理想形」と捉えてください。ひとつの例に過ぎないと捉えれば、生徒のレベルに合わせて演奏方法を変えることができるでしょう。 |

【4巻】

| ページ | 曲 目 | Question | Answer |
|-----|--------|---|--|
| 21 | ジングルベル | 音符、休符が初めてのものばかりで、 指導が困難です。耳で聴いて覚えて弾 くことが目的なのでしょうか。それに しては以前の曲は小さく掲載していま すが、これははっきりと大きく掲載し ているので、楽譜を見ながら弾くもの と捉えてよいのですか。 | 質問の3曲とも3巻の「こいのぼり」のように細かく使い方の段階を考え出すことが出来ます。それほどこの年齢は能力差が激しいということを前提に、その中でも一人一人違った音楽の楽しみ方を体験させてください。「ジングルベル」は弾いた結果、楽譜はこのようになるという程度に捉えましょう。あくまでもイメージの世界です。4歳児に音楽のレッスンをする講師は、「一人一人の能 |
| 24 | おしょうがつ | 加線、フラットの説明がありませんが、 この段階でなぜ必要なのですか。 | 力を読み取り、それに合わせて与えられた素材に工夫を施す」ことが必要です。面倒なことかもしれませんが、幼児への指導はそれが当たり前だという自覚を持ちましょう。 |
| 28 | ゆき | 7拍子の入るタイミングはこの年齢では困難だと思うのですが、この段階でなぜ8分の7拍子の曲を掲載したのでしょうか。 | 伴奏は、練習しても難しいようなら、生徒に集中しながらでも講師自身が楽に弾けるレベルに変えてしまってかまいません。日本語で7文字というのは、俳句などにみられるようになじみやすい数です。「変拍子だから難しいのでは?」と捉えずに、講師が自然に歌って聴かせることが大切です。 |
| 全体 | | | ミュージックデータが音楽として厚みがあるのは、生徒の感性が音楽にしっかりと包み込まれて、その中に身をゆだねるという視点から作られているためです。この年齢の段階は、耳から目から与えられるものに、どのように反応し、判断し、表現していくかという感覚を育てることを目的としています。 |
| | | 気がします。その結果、工夫を求める | 楽譜表記や注釈に対して、楽典的な視点から「説明がない」「理解するのは難しい」ということのようですが、とにかく歌って動いて見て味わって、楽しむ中で実はさりげなく様々な体験をしているというレッスンを心がけましょう。では、なぜ生徒の見る部分に楽譜があるのでしょうか。それは、絵柄として楽譜などに視覚的になじんで欲しいからです。その結果、知的な能力がついてきたときに、楽譜を記号としてのみ読み取るのではなく、演奏によって自分の持っているイメージを表現する力がついてくるのです。 |

20

【5巻】

| ページ | 曲目 | Question | Answer |
|-----|-------------|----------------------------------|--|
| 6 | 10にんのインディアン | 4巻の後半の曲に比べ簡単すぎると思いますが。 | 正しい指の形を確認させるために、簡単な曲にしました。 ニュアンスなども自分でつけてみるように指示するとよ いですね。 |
| 13 | じゅんばんこ | 両手同時に弾けない場合はどうしたら よいですか。 | 生徒の能力に応じて、片手ずつでもかまいません。 |
| 18 | かっこう | 1,2 小節目が弾けない場合はどうした らよいでしょうか。 | カノンの早期導入が目的ですから、慣れるまで片手で、 もしくは部分奏、歌う、先生と一緒になど、生徒によっ て工夫してください。 |
| 26 | しゃぼんだま | 8 分音符がこの曲のみですが、どうし てですか。 | 6 巻にでてくる 8 分音符の導入です。知っている曲でなれておきましょう。 |
| 29 | とんでみましょう | 手の交差と指使いが難しいのですが。 | ひとりでできないときは、生徒を先生のひざの上に座ら せて、先生の腕を交差するように練習しましょう。 |
| 30 | おはなばたけ | 生徒によっては難しいと思いますが。 | 跳躍運動の課題なので、経験として前半だけでも、片手だけでもかまいません。または後回しにしてみてはいかがでしょうか。 |
| 37 | ロボット | ポジション移動が唐突に出てきた印象 があります。 | レッスン6からポジション移動の練習はしてきています ので、できなかったら復習させましょう。 トレーニングの課題なので、ゆっくり弾かせてあげましょう。 |
| 46 | エスカレーター | 生徒によっては難しいと思いますが。 | その場合は、6巻に入ってから、また戻ってみてください。または、生徒が出来ることだけにして、残りは先生が助け、1曲完成させてみてください。耳からの経験も大切なことでしょう。 |
| 全体 | | いろいろな拍子があって指導が大変なのですが。 | 従来の教則本とは異なり、各ページに生徒に応じた説明 が出来るようにはなっていません。ソルフェージュやワークを上手に使ってください。 |
| | | 難易度がアンバランスのような気がす るのですが。 | ポジション移動順に曲を並べてあるので、曲の選択、完成度等は自由な内容になっています。生徒の能力に応じて進めてください。 |
| | | 鉛筆マークはレベルが高いと思うので すが。 | 鍵盤演奏の基本について、初段階から指導することは必須であると考えます。1回のレッスンで理解させようとしないで、何回も繰り返し指導しましょう。幼児には、「積み重ねの指導」よりもときどき前に戻って指導する「らせん状の指導」のほうが大切です。 |

【6巻】

| ページ | 曲目 | Question | Answer |
|----------|-----------------------|----------------------------|---|
| 10 | ウクライナちほうの クリスマスのうた | 重音をなぜここであつかうのでしょう か。 | 響きに対する意識と感覚を養うためです。ハーモニー感 を養うための導入でもあります。 |
| 25 | こどものうた | 左手重音奏が難しいのですが。 | 左手の練習をしっかりさせましょう。手が小さい場合は 単音でもかまいません。 |
| 29,41,45 | しょけんのれんしゅう | | 冒頭の●印の項目を先生も生徒と一緒に、確認してあげながら行なってくださいということです。 |
| | | 初見練習の曲をたくさん載せてほしい のですが。 | 「ソルフェージュ練習問題集(ベーシックコース用)」を 参考にして、初見に役立ててください。 |
| 37 | てがみ | この3曲は5歳のレベルでは難しいと | 確かにそうかもしれません。ただし、このような曲にふ |
| 42 | ゆめのなかのプレゼント | 思いますが。 | れるだけでも、生徒の感性は養われます。先生と一緒に |
| 46 | たからさがし | | 片手だけ演奏するとか途中まで演奏するということでもかまいません。また、次の教本に移ってしばらくしてから、この3曲を演奏してもよいでしょう。 |

2011年4月1日発行〈第4版〉

プチジエトワール Q&A

発行:ローランド株式会社

編集:ローランド株式会社 スクール運営部

〒 101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-7 タームスビル

TEL.03-6684-3489 FAX.03-3255-0864

☆万一、乱丁・落丁本がありましたら、おとりかえ致します。

